

## 2017年度日本農業経済学会第1回幹事会 議事録（案）

日時：2017年5月28日日曜日 13:00-16:30

場所：東京大学農学部1号館324教室

出席者：盛田会長，坂爪総務担当副会長，小田企画担当副会長，玉国際担当副会長，松本編集担当副会長，松田情報担当常務理事，大石財務担当常務理事，品川学会賞・国内学術担当常務理事，内藤企画担当常務理事，加治佐国際担当常務理事，齋藤農業経済研究（和文誌）編集委員長，不破JJAE（英文誌）編集委員長，首藤会長補佐，草処総務担当常務理事，山本事務局担当

欠席者：東山開催校担当常務理事

### 1 会長挨拶 盛田会長

議事に先立ち盛田会長より挨拶がなされ，本学会が抱える喫緊の課題の解決，学会のプレゼンスを高めるための諸活動の活性化を目指す旨の所信が示された。

### 2 新幹事会メンバーの紹介

新幹事会メンバーの紹介がなされた。

### 3 今年度の主要会議，大会準備等のスケジュールについて

- ・ 第1回常務理事会を2017年7月9日日曜日13時から東京大学農学部1号館324教室で開催されることが確認された。
- ・ 2018年度北海道大学大会についての案内（予告）は9月1日付で，その詳細は，10月末に行う。
- ・ 2018年度北海道大学大会が例年と異なり5月末に開催されることから，第2回常務理事会の開催時期の変更を含め，スケジュール調整を行うことが確認された。

### 4 2018年度北海道大学大会について

#### 4.1 2017年度千葉大学大会を振り返って

- ・ 2017年度千葉大学大会の決算ととりまとめの報告がなされた。
- ・ 企画・総務から，個別報告申請時，報告スライドファイルの提出，ポスター報告における課題及び要旨集の不足について報告がなされ，対応策について今後検討していくことが確認された。

#### 4.2 北海道大学大会開催校の準備状況（日程，会場など）

- ・ 2018年度北海道大学大会の日程案が示された。5月26日土曜日に北海道大学高等教育推進機構にて大会シンポジウム，総会，新理事会を，5月27日日曜日に同機構に

て、個別報告、分科会等の開催予定であることが示された。大会前日（5月25日金曜日）の幹事会、理事会については北海道大学農学部で開催予定であり、26日の懇親会は別会場となる予定である。

- ・ 遠距離からの参加者が多くなるため、5月25日金曜日に開催予定の幹事会、理事会の開催時間の変更を検討する。また、大会最終日に参加者の当日の帰宅を可能にするため、例年は大会終了後に行われてきた関連学会協議会や関連学会編集委員長会議の開催時間の変更を検討する。
- ・ 大会準備金については従来通り150万円を開催校に支給する。

#### 4.3 大会全体の持ち方について（準備状況との重複を除く）

- ・ 大会シンポジウム案として、タイトル、要旨、座長、報告候補者が提案された。
- ・ 日韓シンポジウムは慣例として隔年開催であり、2018年度大会では実施しないことが了承された。
- ・ 国際委員会企画「国際誌掲載支援のための特別企画」等の開催とその有り方について意見交換がなされ、今後継続して検討していく。
- ・ その他の企画として、連携委員会から何らかの企画を提案していく旨が盛田会長より示された。
- ・ 「個別報告の申し込み締め切り」、「特別セッションの申し込み締め切り」、拡大委員会の開催、個別報告「口頭報告」座長決定の時期について、編集、企画、総務で相談し、9月1日の大会案内に間に合うように決定する。

### 5 各担当の業務について

総務（総務、情報、財務、学会賞・国内学術交流）、国際、編集各委員から配布資料に基づき報告がなされた。以下は、審議のまとめである。

#### 5.1 総務関係

##### (1) 総務系事務局のローテーション一巡問題について

- ・ 総務系事務局のローテーションが近々一巡することから、総務担当副会長、会長補佐、総務担当常務理事で一巡後の対応方法について検討していく。

##### 5.1.1 学会賞・国内学術交流

###### (1) 学術賞・奨励賞関係

- ・ 学術賞・奨励賞の募集要項を『農業経済研究』第89巻2号（2017年9月発行予定）及びホームページに掲載すること、募集締め切りが2017年12月末になることが提示された。

###### (2) 農業経済学関連協議会関係

- (ア) 2017年度千葉大会での議事録
- 千葉大会期間中の2017年3月29日に行われた農業経済学会関連学会協議会と関連学会編集委員長会議の議事録が紹介された。
- (イ) 関連学会編集委員長会議の引き受けについて
- 従来は2年に1回日本農業経営学会大会期間中に開催されてきたが、近年は日本農業経済学会大会期間中に開催されるようになってきているため、日本農業経済学会期間中の開催に正式に変更することが提案され、了承された。
  - 会議の引き受け体制を整備し、司会を編集担当副会長、会議運営及び議事録作成を編集担当常務理事、事務局を学会賞・国内学術交流担当常務理事が担当することが提案され、了承された。
- (3) 10月開催の日本農学会シンポジウムについて
- 本学会のプレゼンス向上のため、日本農学会シンポジウムへの参加に向けた体制の整備と今年度の応募について議論がなされた。
  - 体制については、総務担当副会長、学会賞・国内学術交流担当常務理事、企画担当（副会長、常務理事）で担当することが提案され、了承された。
  - 今年度の応募について議論が交わされ、スケジュールの都合上、今年度の応募を見送ることが確認された。
  - 本年度の体制で来年度の応募に向けた検討を行い、来年度の理事に提案していくことが確認された。
- (4) 日本学術協力財団賛助会員加入依頼について
- 日本学術協力財団の賛助会員加入依頼について紹介がなされ、賛助会員への加入について議論が行われ、加入を見送ることが確認された。
- (5) 農学会：日本農学進歩候補者推薦について
- 本学会では2016年度の奨励賞受賞者がなかったため、関連学会に被推薦者の紹介を依頼することが提案され、了承された。

## 5.1.2 情報

### (1) 学会誌の電子化

- 和文誌87巻、英文誌19巻のJ-STAGEへの搭載を本年度に行う。英文誌については昨年度に1巻までの搭載が完了しており、本年度からはバックナンバーを含め既刊の巻が全てJ-STAGEに搭載されることになる。
- 和文誌のバックナンバーについて、本年度は66巻から69巻をJ-STAGEに搭載する予定である。
- 68巻2号が編集部（学会誌刊行センター）に在庫がない。事務局にも在庫がない場合には、幹事会出席者に対し当該号の貸し出しを依頼する旨、報告があった。
- 66巻以前については編集部にはほとんど在庫がないため、次年度以降の電子化に支

障が生じる。まずは事務局（農林統計協会）及び岩波書店に在庫の有無を問い合わせ在庫状況の確認を行い、その後の対応方法を検討する。

(2) ニュースレターの配信

- ・ 本年度からニュースレターを年 4 回配信していく予定であることが報告された。
- ・ 各回に配信される内容についての案が提示され、意見交換が行われた。
- ・ アカウントの取得及びメーリングリストの準備の目途がついた時点で、各担当理事に原稿を依頼する旨が報告された。
- ・ メーリングリストの作成については事務局に依頼するが、別途費用が発生することが報告された。

(3) メーリングリストの利用

- ・ ニュースレター配信のために作成するメーリングリストの利用方法について、各会員による投稿の許可を含め、議論がなされた。当面はニュースレターの配信のみに利用し、各会員による利用については継続して議論していく。

## 5.2 編集（和文誌・英文誌）

(1) 論文数の推移

- ・ 2014 年から現在までの和文誌、英文誌、報告論文/Research Letters への投稿数、採択数、審査状況についての報告がなされた。

(2) 学会誌印刷コストの問題

- ・ 論文集の廃止に伴う学会誌印刷コストの上昇について報告がなされた。今後、対応策を検討していくために、コスト上昇の要因を精査していく必要があることが確認された。

(3) 投稿・審査のオンライン化に向けた懸案事項

- ・ JST がオンライン化に対する補助事業を実施しているが、年 80～90 報投稿されていることを補助の条件としており、本学会の採用は困難である。
- ・ 学会誌刊行センターに依頼している編集業務との関係を整理する必要がある。

(4) 電子ジャーナル化

- ・ 岩波書店との間で、発行から 1 年以内の和文誌についても、閲覧を会員に限定するという条件付きで、J-STAGE に搭載を可能とすることで合意を得たことが報告された。

## 5.3 国際

(1) 2023 年アジア農業経済学会の日本開催に向けて

(ア) 大会準備状況

- ・ 2020 年の北京大会までに決めておくことが望ましい事項について報告がなされた。
- ・ 諸岡慶昇先生にアジア農業経済学会の準備委員を依頼することについて、第 1 回

常務理事会で承認を求める旨が提案され、承認された。

(イ) 大会開催資金の確保について

- ・ アジア農業経済学会の開催に向け、現理事の任期中に特別会計 II の一部を開催資金として確保することについて合意形成したい旨が提案され、幹事会での理解が示された。
- ・ 今後、開催資金の必要額の算定に向けた情報収集を行うとともに、開催資金の準備方法について検討していく。

(2) 韓国農業経済学会との交流について

- ・ 2017年6月7日、8日に開催される第60回韓国農業経済学会大会における、Key-note 講演者の推薦依頼があり、鈴木宣弘会員を推薦し承認された旨が報告された。

## 5.4 財務

(1) 2016年度財務報告の進捗状況

- ・ 幹事会に先立ち事務局から提出された2016年度財務報告の概要について説明がなされた。
- ・ 前財務担当常務理事、現財務担当常務理事、会長補佐、総務担当常務理事で農林統計協会を訪問し、提出された財務報告の確認を行う旨が示された。

(2) 財務状況と財政健全化について

- ・ 特別会計 II を財源とした引き当て処理の持続性が懸念されることから、コストの削減が可能な箇所について継続的な検討が必要であることを幹事会で共有した。
- ・ コスト削減の一案として、大会要旨集への個別報告要旨の掲載の中止と個別報告要旨のホームページ上での掲載が提案され、引き続き検討することになった。

## 5.5 学会長

(1) 連携委員会

- ・ 2017年度千葉大会総会において連携委員会が常置化されたことに伴い指名された委員会構成メンバーの紹介がなされた。また、第1回常務理事会において委員の報告を行い、承認を得ることが確認された。
- ・ 2017年6月3日土曜日に2017年度第1回連携委員会を開催する旨が報告された。

(2) 農業経済学辞典編集状況について

- ・ 辞典の構成と編集委員の担当について説明がなされた。
- ・ 現在は各章の項目案（第1次案）をもとに、その細部について常任編集員を中心に検討作業を進めていることが報告された。

## 5.6 会長補佐

- (1) 学会年間スケジュール表の作成について
    - ・ 全体会議，大会，各担当を含めた年間スケジュール表の原案が提示され，各担当理事に対し情報の提供と修正について依頼がなされた。
  - (2) 学生会員の会員資格，会費の変更についてのお知らせ
    - ・ 2017年度千葉大会総会において承認された学生会員の会員資格及び会費の変更を学生会員に周知するお知らせを本年度の会費請求とともに行うことと通知文書の案が提示された。
    - ・ 財政状況を鑑み，会費の納入を促す文書を会費請求に添付することが提案された。
  - (3) 会員名簿について
    - ・ 会員間の相互交流を円滑化するための会員情報の利活用について，セキュリティの観点も踏まえた検討状況について説明がなされた。
  - (4) 学会の事業体制について
    - ・ 学会が委託している業務と委託業者についての確認が行われた。
- 6 農林統計協会より事業受託体制の案内
- ・ 業務委託先である農林統計協会担当者より 2016年度の財務報告の遅れについての経緯と，この対応を含めた事務局体制の改善，農林統計協会の経営財務状況についての説明がなされた。
  - ・ 学会長から，農林統計協会に対し本学会との契約上委託している業務の滞りない執行について改めて依頼がなされた。

幹事会閉会

(文責：草処・首藤)